新年への思い筆にのせて

アドバイスを受けながら筆を運ぶ参加者たち

松花堂新春書初め席書大会

「寛永の三筆」の一人、松花堂昭乗ゆかりの松花堂で1月20日、新春恒例の「第16回松花堂新春書初め席書大会」が行われました。

3歳～15歳の120人が参加し、力強い筆運びで新年への抱負をしたためました。

同大会は市や松花堂庭園・美術館、市文化協会の共催で、子どもたちに書に親しんでもらうことが目的です。

講師を務めた同協会書道部会員は「トメるところで力をいれて」など筆使いをアドバイス。

子どもたちは学年毎に設けられた「つよい心」や「心の交流」などの課題に挑戦し、半紙いっぱいに力強くのびやかな字を書きあげました。

姉妹で参加した濵野綾音さん(9)と史織ちゃん(6)は「『心』という字のハネるところに気をつけながら丁寧に書きました。初めて参加したけど、面白かった」とうれしそうに話をしていました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。

身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

なごやかに新春祝う

新春お茶会&和太鼓とメロディ

地域文化に慣れ親しんでもらおうと「新春お茶会&和太鼓とメロディ」が1月7日、美濃山コミュニティセンターで行われました。訪れた親子連れたちは新年を祝う一服などを楽しみました。

開会にあわせて、山鳩第二保育園の園児たちが2グループに分かれて威勢のいい和太鼓の演奏や「冬景色」などの歌を披露しました。

また、お茶会では、同センターで活動する茶道サークル「美楽会」と「子ども茶道教室」の児童7人が参加者63人を3席に分けておもてなし。

参加者たちは「きれいに点っている。おいしい」と、児童などが点てた薄茶を味わいながら、和やかな時間を過ごしていました。

お点前を披露した平井千春さん(11)は「緊張したけどうまく出来た。茶道は日本の伝統を感じることが出来るので今後も続けたい」とにこやかに話していました。

参加者をもてなす児童たち

夢を持つことの大切さ学ぶ

尻尾を取られないように守り合う児童と石黒さん(左奥)

5年生79人「夢の教室」

日本サッカー協会の主催で児童に「夢を持つことの大切さ」を伝える「夢の教室」が1月10日、八幡小学校で開催されました。

この日は、元Jリーガーの式田高義さんと北京五輪シンクロナイズドスイミング日本代表の石黒由美子さんが「夢先生」を務め、5年生79人が授業を受けました。

体育館で行われた授業では、手をつないで円になった児童が尻尾をつけた児童1人を鬼役の先生から10秒間守り切るゲームなどを通じて、力を合わせることの大切さを学びました。

その後、教室に戻り、式田さんは自身がプロサッカー選手になったエピソードを交えながら「夢があったからつらいことも乗り越えられた。努力・挑戦し続け、夢を叶えてください」と児童たちに呼びかけました。

児童たちは「建築士になるために算数や設計図の勉強を頑張る」などそれぞれの夢への思いを新たにしていました。

小学校で「ものしり博士検定」

ゆかりの人物や文化財学ぶ

「やわたものしり博士検定」の授業が1月17日、くすのき小学校で行われました。

同検定は八幡の歴史や文化などを学び、市民に市への興味や関心を高めてもらおうと、市シルバー人材センターが毎年開催。今年は5つの小学校の4年生を対象に実施しています。

児童たちは過去の検定に合格した「ものしり博士」らから八幡ゆかりの人物や文化財などについて3回の授業で学び、最終回の18日に検定試験に挑戦しました。

この日の授業には97人が参加。講師の井上勝喜さんと市教育委員会職員がカラス型飛行器の模型を用いながら「二宮忠八さんがライト兄弟よりも先に飛行原理を考え、八幡で飛行機作りに取り組んでいた」ことなどを紹介すると、児童たちは驚きながら聞き入っていました。

阪本琉綺さん(10)は「授業を受けて、八幡が有名なところなんだと改めて感じました。八幡について学べて面白かったです」と話していました。

カラス型飛行器の説明に聞き入る児童たち